

## 研究所見学まとめ

環境保全実践の化学製品研究所 見学

見学先 三洋化成工業株式会社 桂研究所

日時 2010年10月22日 13:30～15:00

桂研究所見学のスケジュール

- 1) 桂研究所長挨拶
- 2) ビデオ「三洋化成工業株式会社の概要」
- 3) 研究所の概要説明
- 4) 研究所見学

### 1) 桂研究所長挨拶（桂研究所長 河原様）

桂研究所は2008年8月にオープンした。本社研究所に次ぐ2つ目の新しい研究所であり、京都市内が一望できる非常に景色の良いところにある。研究所の概要を聞かれた後、4班に分かれて見学して下さい。

### 2) ビデオ「三洋化成工業株式会社の概要」

三洋化成は“はたらき”を化学するパフォーマンスケミカル（機能化学品）の専門メーカーとして京都で生まれ育ち、世界の発展に貢献している。界面活性剤からスタートし、ウタン関連製品、親油系高分子薬剤、親水系高分子薬剤、特殊化学薬品で領域を広げ3,000種類以上の製品を生み出している。

R&Dの基本にあるのがエース指向（エース指向とシーズ指向を合成した三洋独自の用語）である。

環境にやさしい製品を送り出しており、その主なものとしてウタンビーズ（自動車のインパネ）、ポリエステルズ（次世代カー）、永久帯電防止剤（樹脂）、電気二重層コンデンサ用電解液（ハイブリッド電源）等がある。一方、環境保全及び安全に関してレスポンスブルークア(RC)活動を取り入れている。2001年2月には全工場ではISO14001の認証取得を完了した。環境保全活動S-TEC21を策定し「省エネルギー」、「ゴミゼロ」、「化学物質の排出量削減」に取り組んでいる。温暖化ガス排出削減にも取り組んでいる。

日本国内には京都、名古屋、衣浦、鹿島の4工場を有しており、海外生産拠点はアメリカ、中国、タイ等がある。その夫々の工場における生産品目の紹介があった。

### 3) 研究所の概要説明（事業研究本部長 前田様）

三洋化成工業の研究の概要と題して、研究の基本的なところ及び桂研究所の説明がなされた。

#### ・研究の基本

「“人”中心の経営」のキーワードが、全社で取り組んでいる事業活動の基本理念である。

人の周りに色々なシステムを配置していることで、従業員を働きやすくして、従業員の働くモチベーションと会社の進むべき方向性を一緒にしている。

エース指向を実践している。技術を積み重ね、連鎖的に機能させて高性能の製品を生み出している。過去5年間に開発した新製品（含改良品）の売り上げ比率を40%以上にキープしていくことを研究の大きな目標としている。

研究の組織がフラットである。チャレンジする制度があり推奨している。2つの研究所は一体運営を行っておりシステムは同じであるが、桂研究所は先端的な探索研究の部署が入っている。

部署の中には エリート長という各チームのリーダーがいる。役職ピラミッドをなくしてフラットな組織で運営している。本部長奨励賞や仕事を一定期間 研究-営業間 or 研究-生産間でチェンジする制度、及び「道場」と称するカフェで 夕方時間外に文化を伝承する制度等もある。

- ・桂研究所について

桂研究所は 3つの企業及び半公的機関が集まっている桂イノベーションパーク内にある。京大桂キャンパスのすぐ横にあることが特徴。この地を得て、桂研究所のビジョンは ネットワーク型をキーワードとして運営。地理的關係から産、官、学、一体となって情報を密にとって 先端技術基盤の確立を目指している。

桂研究所は 6,000m<sup>2</sup>の敷地に 1,2Fの低層棟とB1F～5Fの研究棟からなる。今後も増設計画がある。低層棟はフリーなエリアで玄関、ホール、応接間、会議室等がある。

研究棟の地下及び 1階は共通エリアで大きな設備等が入っている。2階以上が各研究室となっている。

研究室入り口には交流スペース(ミーティングするエリア)を設け、色々な人とディスカッションすることを推奨している。

#### 4) 研究所見学 (4班に分かれて見学)

食堂、実験室入り口の交流スペース、3Fの実験室(クリーンルーム)、展示ホール、低層棟屋上等を見学した。

交流スペース: ホワイトボードを使ってミーティングできるエリアが確保されていた。

実験室: 実験台のすぐ横に事務机があり、実験をしながらその横でデスクワークが出来るようになっていた。

展示ホール: 環境・住設関連、電子・情報産業関連、繊維産業等々の製品サンプルがパノラマと共に展示されていた。

通路には、その年に最も重要な特許を出願した発明者の表彰状が掲げてあった。

低層棟屋上: 京都大学や京都市内の東南方向が見渡せ、緑に囲まれた素晴らしい環境であった。

見学を終え ホールに戻っての質疑応答: 残業と研究の関係で何か特別な労務管理策をとっていますか?

残業はあるが研究員が自分自身でコントロールしている。正式なフレックスタイム制ではないが、フレキシブルに勤務時間をずらしたり、他部署からの応援を仰いだりして対応しているとのこと。

最後に営業部長の楡様より 研究所を活用してもらい、付き合いを深めていければとの挨拶を頂いた。

桂研究所の立地条件、環境、基本理念、組織、制度、実験室等 斬新なところが多々あり、非常に参考になりました。桂研究所の多数の方々に長時間に亘り、ご協力頂き感謝しております。

以上